

【2024 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

科目名		ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
人間発達学		PSF11-005 OSF21-001 HSF-12-008	(リ理.理) 必修 (リ作) 必修 (福.人) 選択	2	1	後期
担当教員		研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
渡辺 俊太郎		C318	shuntaro.watanabe		月曜日 13:00～14:30	
授業の目的・概要		人間を発達的な視点からとらえ、生涯発達の支援で展望する事ができる。また、人間を発達的な視点で捉える事でその後学ぶ臨床的な知識の理解をより深める事ができる。授業を通して自分自身を振り返るとともに今後出会う対象者の理解に役立てる。各回の内容について、動画を含めて理解し、その後の課題を通じたフィードバックと Teams を利用した意見交換を行い、発達に関する理解を深める。				
授業形式・方法		☐ 対面授業 ☒ 遠隔授業(双方向型) ☐ 遠隔授業(自主学习)	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習 ☐ 実技	☐ PBL ☐ 反転授業 ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ その他 ()	☐ ディスカッション・ディベート ☐ 実習・フィールドワーク	
学習上の助言		人間を身体と精神の両面から生涯発達する存在として捉え、ライフステージにおける発達過程を講義する。発達の視点より生命倫理の観点についても授業内容に取り込む。また、目と手の協調・日常生活動作（食事・排泄・更衣）遊び・社会性の発達を深く掘り下げる。特に原始反射、姿勢反応と乳児の運動発達過程については予習・復習を行ってほしい。				
教科書		イラストでわかる人間発達学 /監修：上杉雅之 /医歯薬出版 /2015				
参考書		発達を学ぶ 人間発達学レクチャー / 著：森岡 周 / 株式会社 協同医書出版社 / 2016				
外部教材						
学生が達成すべき行動目標					関連卒業認定・学位授与方針	
①	原始反射と姿勢反応について理解し、説明できる				HSU(2) RH(2)	
②	乳児の運動発達過程を理解し、原始反射と姿勢反応との関係性について説明できる				HSU(2) RH(2)	
③	各ライフステージにおける発達課題と危機について理解し、説明できる				HSU(1)、(2) RH(2)、(4)	
④	「命」について倫理の観点から深く考え、自分なりを説明できる				HSU(1)、(2) RH(1)、(2)	
⑤						
⑥						
授 業 計 画						
回	学習内容等			授業の方法	学習課題・学習時間（時間）	
1	リハビリテーションにおける発達の重要性を学習する オリエンテーション			同時双方向型授業	授業計画をたてる。	4
2	発達概念について学ぶ			同時双方向型授業	教科書を読む（第1章）。	4
3	発達理論について学ぶ			同時双方向型授業	教科書を読む（第2章）。	4
4	乳児期の認知・運動・社会性発達について学ぶ			同時双方向型授業	教科書を読む（第5.6.7.8章）。	4
5	幼児期の認知・運動・社会性発達について学ぶ①			同時双方向型授業	教科書を読む（第9章）。	4
6	幼児期の認知・運動・社会性発達について学ぶ②			同時双方向型授業	教科書を読む（第9章）。	4
7	学童期の認知・運動・社会性の発達について学ぶ			同時双方向型授業	教科書を読む。	4
8	青年期の認知・運動・社会性の発達について学ぶ			同時双方向型授業	教科書を読む。	4
9	成人期・高齢期の認知・運動・社会性の発達について学ぶ			同時双方向型授業	教科書を読む。	4
10	姿勢反射/反応について学ぶ①			同時双方向型授業	教科書を読む（第10章）。	4
11	視線反射/反応について学ぶ②			同時双方向型授業	教科書を読む（第10章）。	4
12	上肢機能・ADL の発達について学ぶ			同時双方向型授業	教科書を読む（第11.12章）。	4
13	感覚・知覚・認知・社会性の発達について学習する			同時双方向型授業	教科書を読む（第13章）。	4
14	発達検査について（遠城寺、GMFCS、デンバー、PEDI）学ぶ			同時双方向型授業	教科書を読む（第3章）。	4
15	生涯発達について学ぶ(まとめ)			同時双方向型授業	教科書を読む（P239～P272）。	4

【2024 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

試	定期試験 達成度評価 評価ポイントを参照						
達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		70	0	0	0	30	100
総合力指標	知識・技術力	50	0	0	0	10	60
	思考・推論・創造する力	0	0	0	0	20	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	10	0	0	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	10	0	0	0	0	10
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	定期試験を実施して評価する。ライフステージにおける発達過程と課題、ライフステージ間の関連性について問う。				試験問題および回答用紙の返却
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	各ライフステージにおける知識や理論の習熟度を測るために、授業時間内に小テストを実施する。授業で得た知識に対して、思考・創造、推論、表現する力、課題に取り組む姿勢・意欲、問題を発見・解決する力を評価の対象とする(30%：10回実施)。				授業内で得た知識の臨床での応用方法について授業内で情報共有する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	なし						
教員の実務経験	発達領域と成人領域の作業療法士として 20 年以上の臨床経験						
実践的授業の内容	臨床現場における最新情報と共に、その専門性を学生に提供する。						
そ の 他	Teams を使った同時双方向型授業を行う。授業時は通信容量が無制限の Wi-Fi 環境を推奨する。遠隔授業では、課題のダウンロードや動画視聴などがあるため通信量に十分に注意すること。今後の感染症の状況など、社会情勢に応じて再度シラバスの変更が生じる可能性がある。						